



WILD BIRD SOCIETY OF JAPAN · SAITAMA

しらこぼと

2013.1

No.345

日本野鳥の会 埼玉

S H I R A K O B A T O



「ハヤブサよ、何処へ行く!？」

— 鳥類目録劇的改訂の衝撃 —

石光 章(所沢市)

『日本鳥類目録・改訂第7版』が大変なことになっています!

日本鳥類目録は、日本最大の鳥類学研究者団体である日本鳥学会が国内で観察、記録された鳥類を分類してまとめた日本の鳥類に関する基礎的文献です。巻間多数出版されている図鑑や解説書も殆どこの目録をベースに編集されています。

第7版は、日本鳥学会の創立100周年を記念して、2012年9月に刊行されました。2000年の第6版以来12年振りの改訂ですが、今回の改訂は従来とはまるで違う劇的改訂となっているのです。

◇ 巻頭はエゾライチョウ

まず目を引くのが、トップにキジ目が置かれていること。第6版まで、トップはアビ目でした。ところが第7版で最初に登場する鳥はキジ目キジ科エゾライチョウ属のエゾライチョウです。

エゾライチョウは、日本では北海道にしかな息していない森林性の地味な鳥。最近では個体数が激減し、北海道のレッドデータブックでは希少種とされいながら狩猟鳥になっており、チグハグな我が国の環境行政の象徴のような鳥です。今回思いがけず“巻頭出世”したことで注目度が上がり、保護の手が厚くなるよう期待しましょう。

◇ ハヤブサはタカではない!?

一番驚いたのはハヤブサの“処遇”です。第6版までずっとタカ目ハヤブサ科とされていたのが今回タカ目から離縁されてしまいました。形の上ではハヤブサ目となり、科から昇格しているのですが、分類としてはスズメやカラスなどを含むスズメ目に類縁が近いということで、スズメ目の直前に位置づけられました。

スズメ目に近いと言っても、相変わらずスズメ目の鳥を襲撃することには変わりはないでしょうが、タカ目から遠ざけられた新分類をどう受け止めるべきか? タカファンとしては悩みます。ハヤブサよ、何処へ行く!?

◇ ポイントはDNA

…というように第7版はまさに劇的改訂になっているのですが、その最大の要因はDNA(デオキシリボ核酸)分析です。DNAは遺伝子の本体として生物の細胞内に存在する物質で、解析することで人間の場合は個人の特典まで可能になり、犯罪捜査の決め手になっていることは周知のとおりです。

第7版のまえがきによりますと、今回の改訂に際し「最近の分子系統学の発展を受け分類の大幅な見直しを行った」結果、「従来の版とは目の配列や目を構成する科が大きく変更された」ということです。DNAは科学分析の切り札。突きつけられたらグーの音も出ません。黄門様の印籠なみの威力です!

◇ 悲喜こもごもの科

掲載種数も大幅に増えキジ目に始まりスズメ目まで、24目81科260属の633種となりました。第6版は18目74科230属542種でした。目が6つも増えました。新たに目になったのは先述のハヤブサの他、ネットアイチョウ、カツオドリ、ノガン、サケイ、サイチョウです。サイチョウ目は、第6版ではブッポウソウ目とされていたヤツガシラ科が独立してサイチョウ目ヤツガシラ科となったもの。科の変更のなかで目立つのはウグイス科関連の鳥。これまでウグイス

科として一くりにされていたセンニュウ、ムシクイ、セッカ、ヨシキリ、キクイタダキ等の属がそれぞれ科に昇格しました。一方、哀れ降格させられた科もあります。ツグミ科がヒタキ科ツグミ属に、ヒレアシシギ科がシギ科ヒレアシシギ属に、それぞれ一階級下げられてしまいました。人間社会でしたら、組織変更や人事異動となると大騒ぎですが、まさか鳥たちが昇格、降格で一喜一憂することは無いでしょう。

◇ シーボルト健在

新記録種も多数掲載されました。この中には、コシジロウズラシギ、ウスハイロチュウヒ、キツタアメリカムシクイなど、私達の記憶に新しい種もありますが、過去の文献を精査した結果 1833 年に記述された標本が現存することから、オオハシウミガラスという種が、実に 179 年振りに記録されました。この文献の主はシーボルトのようです。江戸末期に長崎オランダ商館の医師として来日した歴史に名高いドイツ人。我が国の鳥類学にも縁の深い人で、有名なコマドリとアカヒゲの“学名取り違え事件”にも関係していました。没後 146 年経ってなおシーボルトここに在りです。

◇ シラコバトが外来種リストに！

第 7 版は国内で記録された種のリスト「Part A 日本鳥類目録」と、国内で繁殖記録のある外来種のリスト「Part B 外来種・亜種」の 2 つのカテゴリーに整理されています。ここで注目は、シラコバトが AB 両方のリストに入っていることです。ヤマドリ、トキ、コウノトリ、カササギ、メジロなども同様の扱いです。

シラコバトについての記述はこうなっています。「IB (introduced breeder 移入繁殖種)：茨城、栃木、埼玉、千葉。(中略) 関東北部の集団以外は自然分布としたが、移入分布の可能性もある」。つまり関東北部のシラコバト集団は外来種と言うことです。埼玉県の鳥である希少種が外来種=ヨソ者扱いとは！ 悲しい！

あけまして おめでとうございます

日本野鳥の会埼玉代表 藤掛保司

会員の皆様、佳いお年をお迎えの事とお慶び申し上げます。



昨年は渡良瀬遊水地がラムサール湿地条約に登録されました。皆様方の多くの署名活動のお陰と、感謝申し上げます。

11月24日(土)～25日(日)には第1回「さいたまーチ～見沼ゾーデーウオーク～」にPRブースを出展しました。公益財団法人日本野鳥の会(本部)のご協力も得て、5,500名以上の参加者、訪問者、出展者関係の方々へのPRに努めました。このことは12ページで詳しくご報告しています。

今後とも、さまざまな活動にご理解とご協力を切にお願い致します。さらに、バードウォッチングを楽しみ、健康で、安全第一で過ごしたいと思います。

皆様方のご健康とご活躍を心よりお祈り申し上げます。

ヤマドリ、トキなども、地域・亜種・時代などによっていろいろあるようです。

◇ みんな大慌て

これだけの劇的改訂ですから及ぼす影響も半端じゃありません。身近なところで、まず探鳥会のチェックリスト。当会は既に記録委員会の方からお知らせたとおり、在庫を使い切るまでは第6版バージョンで行きますが、いずれ改訂せざるをえないでしょう。

出版社も大慌てでしょう。図鑑、解説書等を一から作り直さなければならないのですから大仕事です。

私たちにしても、折角覚えこんだ知識を大幅に修正しなければなりません。アナログからデジタルへの切り替えを苦勞の末ようやく乗りきったと思っていたら、DNA革命の波に巻き込まれる…。

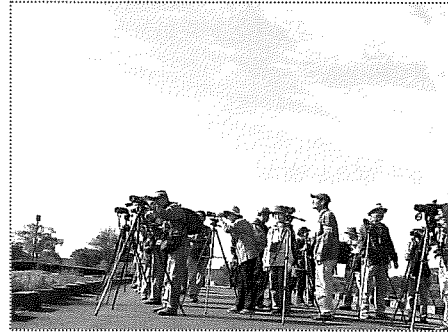
人生、試練は尽きないようで…。

2012年10月20日(土) 加須市・渡良瀬遊水地探鳥会

内田孝男(古河市)

この探鳥会は記念すべき行事となりました。7月3日にラムサール条約湿地登録されて以来、初めての探鳥会なのです。すなわち埼玉県内で初めて登録された、特に水鳥の生息地として、国際的に重要な湿地内において行われる第1回目探鳥会でした。

「登録湿地！」と聞くと「何か特別の場所になって制約が多く、許可なんかが必要になるの」といった声を耳にしますが、なんらこれまでと変わるところはありません。2010年11月号の『しらこぼと』に掲載しましたが、渡良瀬遊水地は国指定特別鳥獣保護区保護地区でなく、国指定鳥獣保護区です。今までと同じ探鳥会です。近いところでは谷津干潟と同じ。



ここでラムサール条約登録について再確認しておきたいと思います。

ラムサール条約の正式名称は、「特に水鳥の生息地として国際的に重要な湿地に関する条約」といいます。ラムサールとは、この条約が作成された地であるイランのラムサールにちなんでいます。日本は1980年に加入。釧路湿原が最初で、2012年に渡良瀬遊水地を含み9カ所を追加し、現在の登録湿地は46カ所です。

1-その目的は-

特に、水鳥の生息地等として国際的に重要な湿地、及び、そこに生息・生育する動植物の保全を促進することです。しかし、最近では水鳥の生息地だけでなく、さまざまな湿地生態系が果たす役割の重要性が広く認められ、基準にも記載されています。水田なんかいい例です。

2-登録に何か必要な事があるの-

国際的な基準が9項目あります。その内の2項目、「定期的に2万羽以上の水鳥を支える湿地」や「水鳥の1種または1亜種の個体群で、個体数の1%以上を定期的に支えている湿地」は、よくご存じだと思います。

また、日本では条件として3つの項目があり、すべてクリアしなければなりません。

①国際的に重要な湿地であること(国際的

な基準のうちいずれかに該当すること)

②国の法律(自然公園法、鳥獣保護法等)

により、将来にわたって、自然環境の保全が図られること

③地元住民などから登録への賛意が得られること

この3項目ですが、全てが揃うのがなかなか大変なんです。

3-これまでと変わるところはないの-

環境省ホームページに国の取るべき措置が明確に示されています。

①各湿地の管理計画の作成、実施(保全と賢明な利用の推進)

②各条約湿地のモニタリング、定期的な報告

③湿地の保全に関する自然保護区の設定

④湿地の保全管理に関する普及啓発、調査の実施

世界に向けて発信することは、国としてもそれなりの自覚をし、実施行動をするわけですね。

ところで、日本野鳥の会埼玉はいつごろから、渡良瀬遊水地での探鳥会を始めたのでしょうか。編集部で探鳥会の記録をまとめているYさんに資料をいただいたところ、1984年秋の10月10日に、当時の日本野鳥の会埼玉

県支部と栃木県支部が合同で実施したと記録されていました。天気も曇り時々晴れのようにでしたから、鳥見日よりだったと思います。

確認された鳥種は43種。中でもコチドリ、ムナグロ、ダイゼン、コアオアシシギ、アオアシシギ、クサシギ、タカブシギ、イソシギ、タシギとシギ・チドリが多く見られています。まだ谷中湖なぞ無かった、まさに湿地環境だったことがうかがわれます。猛禽では、ミサゴ、トビ、チュウヒ、チョウゲンボウと今も昔も変わらない出現。セキレイ類も3種出ていました。今から30年ほど前の事です。当時参加した人々は、現在の渡良瀬遊水地の変貌にどのような思いを持っているのでしょうか。

まあそうは言ってもやっぱり渡良瀬遊水地、人の住まない3,300haは、**四季を通じて動植物の楽園**です。大規模な開発やレジャーランド等の計画が現れては消えました。それは、渡良瀬遊水地が他とは違う歴史、時代の流れを経て成り立った場所だからです。過去の犠牲のうえに再生されたアシ原を中心とした低層湿地です。維持し、特有の生態系を未来に繋げていきたいものです。

今、国土交通省は渡良瀬遊水地湿地保全再生計画のもと、第2調節池(通称鷹見台の東)の一部において試験掘削をし、モニタリングを行っています。乾燥化が進み、セイタカアワダチソウやオギが広がっている中、どのような形で湿地が再生されていくのか、モニタリングをしつつ、フィードバックして試験地を拡大していくようでこちらも注視していかなければなりません。

また係る各自治体によっては、ラムサール登録を機に、核となる利用施設(センター)を立てる計画もあります。湿地の保全再生をし、同時に賢明な利用を推進していったらいいと思います。

近い将来、谷中湖のような3面コンクリート護岸の湖でない、約30年前の探鳥会のように、猛禽類だけでなく、識別に頭を悩ますようなシギ・チドリがたくさん入るような湿地での探鳥会。そんな探鳥会の来る日を心待ちにしています。

アカショウビンの声を聞きました！ 石川敏男(春日部市)

先日、家内と市内のシネコンへ今話題の『天地明察』を観に行ったときのこと。

岡田准一が演ずる主人公の安井算哲(後の渋川春海)が、中井貴一の扮する水戸光圀公屋敷へ暦の研究のことでお願いに参上、話を交わす場面が出てきます。

すると、“キョロロロロー”。少し間を置いて再び“キョロロロロー”。姿は出てきませんが、天から降ってくるような感じがしました。な、なんと！ アカショウビンの声ではありませんか！ 久しく聞いていなかった声でした。

かつて、東京の高尾山で毎年繁殖していた当時、そう、昭和42年(1967年)の初夏の頃、バードウォッチングを始めて早々、先輩に連れられて前夜のうちに登り、薬王院へと続く杉林にさしかかる頃には白々と夜が明け、やがて大きく澄んだアカショウビンの声が空から降ってきたのです。この時は姿を追ったのですが、見果たせずしませんでした。

その年の夏、サークルの合宿地・月山で、山腹の広葉樹林内の池でカエルを捕食する様子をじっくりと観察できました。よき思い出の一つです。まさか映画の中でアカショウビンの声を聞くとは思ってもいず、驚きかつ懐かしい思いがしました。

時代劇では、よく情景描写に鳥の声が挿入されます。キジバト、カッコウ、ホトトギス、アオバズク、フクロウ、ヨタカ、ヒバリ、ヒヨドリ、モズ、トラツグミ、ウグイス、オオヨシキリ、カケス、オナガ、カラス(ハシブトが多いようです)などが定番ですが、アカショウビンは珍しいのではないかと思います。なお、野鳥好きの知人によれば、TV局によっては季節や場所に関係なく鳥が轉る場面もあるとのこと。

バードウォッチングをしていればこそその感動。ひとりほくそ笑むの感を禁じえませんでした。とまれ、『天地明察』を倍、楽しむことができました。

(編集部：これも「野鳥の行動百景」?)



野鳥情報

さいたま市彩湖北岸 ◇10月14日、JR 武蔵野線寄りのアシ原で、ホオジロ、ノビタキにアリスイ5羽。次から次へと現れて、大変でした(石塚 奏)。

鴻巣市大間1丁目 ◇10月27日、自宅でツグミを目撃。今季初認(榎本みち子)。◇11月1日、畑で5羽+のマヒワを見る。背の低い植え込みの中から飛び去る。今季初認(榎本菜摘野)。◇10月30日、自宅の庭でジョウビタキ♀を確認。今季初認。ツグミより遅れて来るなんて、この秋はどうしたことだろう(榎本みち子)。

さいたま市北区芝川(県道2号線～鷲山橋)

◇10月29日、カイツブリ冬羽1羽、コガモ♀型7羽、ハシビロガモ♂エクリプス1羽、♀型2羽、バン若鳥2羽、オオバン1羽。11月14日、カイツブリ成鳥2羽、カワウ1羽、上流へ飛ぶ。アオサギ1羽。コガモ♂繁殖羽1羽、♀型1羽。オナガガモ♂1羽、ハシビロガモ♂換羽中2羽、エクリプス1羽、♀4羽。バン若鳥1羽、幼鳥1羽、一緒に行動していた(小林みどり)。

さいたま市緑区見沼自然公園 ◇10月30日、コガモ♀型1羽、ヒドリガモ♂2羽、♀型6羽、オナガガモ♂繁殖羽10羽、換羽中4羽、♀15羽、バン成鳥1羽、オオバン1羽、クロジ♂若鳥1羽+、シメ1羽、ムクノキの実を食べる。11月12日、コガモ♂繁殖羽1羽、♀型1羽、オカヨシガモ♂換羽中1羽、ヒドリガモ♂3羽、♀型7羽、オナガガモ♂28羽、ほぼ全部が繁殖羽、♀23羽。バン成鳥2羽、オオバン2羽。「キョッ、キョッ」とキツツキの声。これだけでは種類が判らないが、この少し前に、近くでアカゲラを撮影した人がいるので、おそらくアカゲラの同じ個体であろう。11月15日、マガモ♂1羽、♀1羽、コガモ♀型2羽。トモエガモ♂1羽、午前中だけ滞在したらしい。バン3、4羽、オオバン3羽。11月16日、オカヨシガモ換羽がかなり進んだ♂1羽、♀4羽。シロハラ1羽、ツグミ数羽と共に

よく茂ったムクノキで動き回り、実を食べる(小林みどり)。

さいたま市見沼区染谷～加田屋 ◇10月30日、チョウゲンボウ1羽、コジュケイの声、カケス。11月12日、キジ♂1羽、「コォッ、コォッ」と短く、繰り返し鳴く。11月13日、加田屋川にダイサギ1羽、アオサギ2羽、コガモ20羽+。オオタカ1羽、上空を旋回。同時に近くの雑木林で「キッキッキッ」とオオタカの声がした。チョウゲンボウ1羽。カシラダカ2羽。11月15日、加田屋川にバン1羽、オオバン1羽。チョウゲンボウ1羽(小林みどり)。

蓮田市黒浜 ◇11月8日午後2時頃、ノスリ1羽。同じ個体なのか、去年に引き続き同じ場所で見られた(菊川和男)。

さいたま市見沼区膝子 ◇11月9日、ミヤマガラス150羽+、コクマルガラス少なくとも1羽(小林みどり)。

さいたま市見沼区大和田緑地 ◇11月13日午前11時20分頃、クイタダキ、ヒガラ、シジュウカラ、ヤマガラ、メジロの混群を見た。エノキの低木に来ていたので、肉眼でもクイタダキの頭上のキクが見えた(稲浦永子)。

春日部市武里中野 ◇11月13日午後4時頃、ウイングハット東側、安之堀川左岸の市営サッカーグラウンド(芝生地)に30羽程のタヒバリが散らばって採食していた。他にハクセキレイが4～5羽。しばらくしていくつかの群れに分かれて順次飛び立ち、鳴きながら近くの田んぼへ移動した。午後4時30分を過ぎた夕暮時、今度は大きな群れとなり、辺りを大きく旋回し始めた。数回旋回後、南隣の遊水地(丈の短い草地)に急降下、あっという間に草の中に姿を隠してしまった。およそ午後5時頃までには次々と帰入りしているようだ。夕暮で姿は見えないが声が聞こえていた(石川敏男)。

表紙の写真

タカ目タカ科オジロワシ属オジロワシ

北海道羅臼港の流水の上で、餌を争っていました。
海老原美夫(さいたま市)



行事案内



エナガ

「要予約」と記載してあるもの以外、予約申し込みの必要はありません。集合時間に集合場所におでかけください。

初めての方は、青い腕章の担当者に「初めて参加します」と声をおかけください。参加者名簿に住所・氏名を記入、参加費を支払い、鳥のチェックリストを受け取ってください。鳥が見えたらリーダーたちが望遠鏡で見せてくれます。体調を整えてご参加ください。

参加費：就学前の子無料、会員と小中学生 50 円、一般 100 円。

持ち物：筆記用具、雨具、昼食、ゴミ袋、持っていれば、双眼鏡などの観察用具もご用意ください。双眼鏡はなくても大丈夫です。

解散時刻：特に記載のない場合正午から午後 1 時ごろ。

悪天候の場合は中止、小雨決行です。できるだけ電車バスなどの公共交通機関を使って、集合場所までお出かけください。

さいたま市・さぎ山記念公園探鳥会

期日：1月4日(金)

集合：午前 10 時、さぎ山記念公園入口。

交通：大宮駅東口⑦番バス乗り場 9:27 発浦和学院高校行き、または東浦和駅③番バス乗り場 9:25 発さいたま東営業所行きで、「さぎ山記念公園」下車。駐車場はありませんが、もちろん飲酒運転厳禁です。

担当：海老原、楠見、宇野澤、工藤、小林(み)、浅見、新部

見どころ：新年の挨拶を交わして初探鳥会。

昼ごろからはいつもの野外懇親会を予定しています。酒類、食べ物ご持参大歓迎。敷物も各自ご用意ください。飲みすぎに注意しながら、楽しい時間を過ごしましょう。

滑川町・武蔵丘陵森林公園探鳥会

期日：1月5日(土)

集合：午前 9 時 15 分、森林公園南口前。

交通：東武東上線森林公園駅から、立正大学行き 8:58 発バス乗車。ひとつ手前の「森林公園南口入口」は通過して「滑川中学校」下車。歩道橋を渡るのが最短距離です。

費用：入園料金 400 円 (子供 80 円)。

担当：藤掛、大坂、兼元、杉原、高橋(優)、中村(豊)、藤澤、鈴木、松下

見どころ：今シーズンは冬鳥の種類が多そうです。南口から中央口の山田大沼まで歩きます。お弁当持参で鳥談義をしましょう。

松伏町・まつぶし緑の丘公園探鳥会

期日：1月5日(土)

集合：午前 9 時、松伏町まつぶし緑の丘公園管理棟前。

交通：東武伊勢崎線せんげん台駅東口から、茨城急行バス③番乗り場 8:21 発「まつぶし緑の丘公園」行きで終点下車。

担当：橋口、田邊、植平、榎本(建)、野村(弘)、小林(善)、吉岡、野村(修)、森下、佐野、佐藤、進士

後援：まつぶし緑の丘公園管理事務所

見どころ：池のカモは多くはないけれど、例年 7~8 種を観察しています。近隣の屋敷林や古利根川を巡り、冬の小鳥たちを探します。

戸田市・彩湖探鳥会

期日：1月6日(日)

集合：午前 9 時 10 分、彩湖道満グリーンパーク中央駐車場。

交通：JR 埼京線武蔵浦和駅東口から、②番バス乗り場 8:41 発下笹目行きで、「彩湖道満グリーンパーク入口」下車。直前の交差点まで戻り左折して土手を越える。

担当：倉林、藤掛、松村、新部、赤堀、野口(修)、大井、赤坂

見どころ：カイツブリ類、カモ類、カモメ類、猛禽類など、色々見られます。しばらく出ていないミコアイサやベニマシコに期待。

熊谷市・大麻生定例探鳥会

期日：1月13日(日)

集合：午前 9 時 30 分、秩父鉄道大麻生駅前。

交通：秩父鉄道熊谷 9:09 発、または寄居 8:51 発に乗車。

担当：森本、新井(巖)、鶉飼、倉崎、栗原、
千島、飛田、中川、村上
見どころ：今季は冬鳥の当たり年のようです。
どのような鳥と会えるのか楽しみです。

春日部市・内牧公園探鳥会

期日：1月14日(月・祝)
集合：午前9時15分、アスレチック広場前・
第1駐車場(注：今までと同じ場所ですが、
通称を正式名称に変更しました)。
交通：東武春日部駅西口から、朝日バス③番
乗り場 8:41 発春日部エミナス行きで、
「共栄大学入口」下車(260円)。西へ徒歩約
7分。
担当：石川、吉安、橋口、吉岡、野村(弘)、
野村(修)、進士、佐藤、佐野
見どころ：木々はすっかり葉を落とし、鳥の
見やすい時季到来です。留鳥をはじめ、冬
鳥、漂鳥との出会いが待っています。今季
は、たくさんの小鳥が来ているようです。
斜面林、屋敷林や田んぼなどを巡りながら、
谷津田の景観を残す里山の自然を満喫して
ください。
ご注意：帰路バス発車時刻は、上記バス停か
ら春日部駅西口行き 13:07、14:20 です。

深谷市・仙元山公園探鳥会

期日：1月19日(土)
集合：午前9時、JR高崎線深谷駅南口ロータ
リー。
担当：新井(巖)、小池(一)、倉崎、鶉飼、小
淵
見どころ：今シーズンの仙元山は、カラ類、
キツツキ類が多く見られ、冬鳥も順調に入
って来ました。年が明けても好調が続いて
いることでしょう。唐沢川のカワセミのお
出迎えにも期待します。

『しらこぼと』袋づめの会

とき：1月19日(土) 午後3時～4時ころ
会場：会事務局 108号室

さいたま市・三室地区定例探鳥会

期日：1月20日(日)
集合：午前8時15分、京浜東北線北浦和駅東
口。集合後路線バスで現地へ。または午前
9時、さいたま市立浦和博物館前。

後援：さいたま市立浦和博物館
担当：青木、倉林、小林(み)、須崎、赤堀、
浅見、宇野澤、楠見、小菅、柴野、新部、
増田、畠山、若林、渡辺
見どころ：新年の探鳥会です。川の鳥、アシ
原の鳥、天空の鳥をいっしょに探しましょ
う。お待ちしております。

加須市・渡良瀬遊水地探鳥会

期日：1月20日(日)
集合：午前8時10分、東武日光線柳生駅前。
または午前8時30分、中央エントランス駐
車場。
交通：東武日光線新越谷 7:21→春日部 7:36
→栗橋 7:56→柳生 8:06 着。または JR 宇都
宮線大宮 7:03→栗橋 7:38 着で、東武日光
線乗り換え。
解散：正午ころ、谷中村史跡ゾーン広場。
担当：佐野、玉井、中里、田邊、植平、山田、
佐藤、茂木、進士、野口(修)、内田(孝)
見どころ：今年もベニマシコが渡って来まし
た。チュウヒ、ミサゴなどの猛禽類もよく
見られるようになりました。カモはまだ少
ないので皆様の観察力に期待です。

久喜市・久喜菖蒲公園探鳥会

期日：1月26日(土)
集合：午前9時30分、久喜菖蒲公園駐車場。
交通：JR宇都宮線白岡駅西口から、朝日バス
8:32発菖蒲仲橋行きで、「除堀(よけぼり)」
下車、徒歩約15分。バス停からご案内しま
す。
担当：長嶋、大坂、内田(孝)、長野、植平、
佐藤、佐野、竹山
見どころ：公園の鳥をさがします。林床で採
餌するビンズイや凶鑑通りの姿をしたカモ
が、スコープで観察するに丁度良い距離で、
皆様のおいでをお待ちしているでしょう。

狭山市・入間川定例探鳥会

期日：1月27日(日)
集合：午前9時、西武新宿線狭山市駅西口。
交通：西武新宿線本川越 8:44 発、所沢 8:38
発に乗車。
解散：正午ころ、稻荷山公園。
担当：長谷部、高草木、藤掛、石光、中村(祐)、
山口、星、久保田、山本(真)、水谷、間正、

鈴木

見どころ：雑木林で落ち葉をかき分けるシロハラやビンズイの行進を見つけましょう。上空にも注意して下さい、タカの仲間やヒメアマツバメが飛ぶかもしれません。

蓮田市・黒浜沼探鳥会

期日：1月27日(日)

集合：午前8時45分、JR宇都宮線蓮田駅東口バス停前。または午前9時、環境学習館前。

解散：正午ころ、環境学習館。

担当：玉井、田中、長嶋、吉安、菱沼(一)、長野、青木、榎本(建)、内田(克)、小林(み)
見どころ：厳寒の季節を迎えて黒浜沼周辺のベストシーズンになります。人家に囲まれた場所ですが、変化に富んだ環境で、里の鳥を観察するのによい場所といえます。農村風景も併せて、のんびりと冬の鳥達を楽しみましょう。

ご注意：車の方は出発地点の環境学習館ではなく、北側に新しく出来た「緑のトラスト保全第11号地 黒浜沼駐車場」を利用してください(環境学習館まで徒歩1分)。

長瀨町・長瀨探鳥会

期日：1月27日(日)

集合：午前9時20分、秩父鉄道長瀨駅前。
交通：秩父鉄道熊谷 8:00→寄居 8:28→長瀨 8:48着。

解散：正午ころ、高砂橋付近の弁天様(トイレあります)。最寄り駅は野上です。

担当：井上、佐久間、小池(一)、小池(順)、堀口、鶴飼、松下

見どころ：冬鳥はもちろん、山村長瀨の景観も楽しみながら、荒川沿いを下流に向かってゆっくり歩くコースです。

ご注意：河原も歩く予定です。防寒対策をして履きなれた靴でお出かけください。

羽生市・羽生水郷公園探鳥会

期日：1月31日(木)

集合：午前9時、羽生水郷公園北駐車場。
交通：東武伊勢崎線羽生駅東口から、8:05発羽生市福祉バス手子林・三田ヶ谷ルート(ムジナもん号)で、「羽生水郷公園・キャッセ羽生」下車。

担当：相原(修)、中里、新井(巖)、栗原、植平、飛田、竹山、中川、相原(友)

見どころ：公園の池ではきれいな繁殖羽のカモたちが待っています。アシ原では遠来の冬鳥たちが皆さんを迎えてくれることでしょう。雪化粧の日光連山をバックにタカ類が飛んでくれたら申し分ありませんね。
ご注意：帰りのバスの便は14:51発です。

県内年間鳥見ランキングにご参加ください

普及部長 橋口長和

当会の鳥見ランキングも11回目を迎えます。2012年の鳥見総決算として、「探鳥会参加回数ランキング」と「観察鳥種数ランキング」に参加しませんか。

2012年1月1日から12月31日までの間に、探鳥会に参加した回数と、埼玉県内で観察した鳥種数によりランキングを決定します。多少に関わらず皆様のご参加をお待ちしています。

1. 県内観察鳥種数ランキング

- ・県内での観察であること。県境の河川敷等で双眼鏡や望遠鏡で見える範囲は可。
- ・鳥種は当会作成の『埼玉県内鳥類リスト』に記載されているものとし、新種に関しては、記録委員会が認定した時点で加算。
- ・鳥種名、観察月日、観察場所の3項目を記載したリストを送ってください。

2. 探鳥会参加回数ランキング

- ・当会主催の探鳥会に限ります。リーダー、参加者とも1回1ポイント(宿泊探鳥会も1ポイント)。
- ・探鳥会名、実施月日の2項目を記載したリストを送ってください。

3. ランキングの参加方法

- ・会員に限ります。
- ・過去2回以上それぞれの部門で優勝された方は別格扱いとして、表彰対象からはずさせていただきます。
- ・リストの形式は自由です。お名前、ご住所、電話番号を記載して、下記住所に郵送またはメールしてください。
- ・締切2013年1月31日(消印有効)

： 橋口長和
和



行事報告

9月16日(日) さいたま市 三室地区

参加：48名 天気：晴

カワウ ダイサギ アオサギ カルガモ キジ
イソシギ キジバト カワセミ コゲラ ヒバリ
ツバメ ハクセキレイ セグロセキレイ ヒヨドリ
モズ シジュウカラ ホオジロ カワラヒワ
スズメ ムクドリ ハシボソガラス ハシブトガ
ラス (22種) (番外：ドバト) 残暑が厳しく時間を
短縮した探鳥会であったが、芝川の土手に上ると
秋の風が吹き、イソシギが川面を滑るように飛
んでいた。ひまわり畑へ寄り道した探鳥会になっ
た。(楠見邦博)

9月16日(日) 坂戸市 高麗川

参加：36名 天気：曇

カイツブリ カワウ ダイサギ カルガモ サン
バ コジュケイ イカルチドリ イソシギ キジ
バト カワセミ キセキレイ ハクセキレイ セ
グロセキレイ ヒヨドリ モズ ヤマガラ シ
ジュウカラ メジロ カワラヒワ イカル スズメ
ムクドリ ハシボソガラス ハシブトガラス (24
種) (番外：ガビチョウ、ドバト) 多和目橋の出発
地点で5羽の幼鳥を連れたカルガモが見られた。
イカルの群れがたくさん飛んでくれた。水辺の縁
石にカワセミ夫婦が置物のようにじっとしていた。
コース上の問題から田圃の畦道を迂回したところ
で、稲田の防鳥網に絡まってもがいている2羽の
モズを発見し、救出劇が展開された。モズは無事
解放され、モズも参加者もハッピーでありました。
(山口芳邦)

9月17日(月、休) 松伏町 松伏記念公園

参加：32名 天気：晴

カワウ ゴイサギ アマサギ ダイサギ チュウ
サギ コサギ アオサギ カルガモ ケリ クサ
シギ イソシギ キジバト ヒバリ ツバメ ハ
クセキレイ ヒヨドリ セッカ シジュウカラ
スズメ ハシボソガラス ハシブトガラス (21種)
(番外：ドバト) 9月の中旬になっても暑さが続

いており、少し強めの風に助けられた。公園の池
の水鳥はゼロ。農耕地に出ると稲刈り真っ最中。
コンバインの後について、餌捕りに夢中のチュウ
サギ、コサギ、アマサギをゆっくり観察。水路の
中のクサシギを見ていると反対側に久しぶりのケ
リが出現。やっと参加者の顔が綻んだ。中川の土
手道は少し草丈があつて歩きにくかったが、ダイ
サギ、アオサギ、ゴイサギが出て、サギ6種類を
見ることが出来た。ツバメが残っていて、コガモ
はまだ来ず、モズすら見られず、出現鳥種数の最
低記録を作ってしまったが、久しぶりに小学生2
名が参加してくれたのが、リーダー達には嬉しい
ことだった。(田邊八州雄)

9月17日(月、休) シギ・チドリ類県内調査

ボランティア：15名 天気：晴後曇

石井智、海老原教子、海老原美夫、大坂幸男、佐
久間博文、篠葉利夫、志村佐治、中川敏子、新部
泰治、橋本清一、馬場友里恵、藤田敏恵、船木数
樹、吉原早苗、吉原俊雄 ◇ さいたま市大久保農
耕地で行われた。

9月23日(日) 狭山市 入間川

雨のため中止。(長谷部謙二)

10月7日(日) 北本市 石戸宿

参加：24名 天気：雨

カイツブリ アオサギ カルガモ コガモ キジ
キジバト カワセミ アカゲラ コゲラ キセキ
レイ ヒヨドリ モズ ウグイス キビタキ エ
ゾビタキ コサメビタキ エナガ ヤマガラ シ
ジュウカラ メジロ スズメ カケス ハシボソ
ガラス ハシブトガラス (24種) (番外：ガビチ
ョウ、ドバト) 予報では雨が止むことが予想され、
参加者も多いため実施した。肌寒のスタート。鳥
は期待できないだろうが、雨天の探鳥会も乙なも
のと思いつつ出発した。今年は暑さが長かったた
め、ミゾソバ、ツリフネソウ、キツリフネ (増え
ている)、ヒガンバナなどの花を楽しんだ。学習セ
ンターの裏でガビチョウ。桜土手の桜並木でキビ
タキ、エゾビタキ、コサメビタキ。次にエナガの
群れが飛んで来た。東屋の近くでは、幼鳥からオ
ス成鳥に換羽中のキジ4羽がブッシュの中に止ま
っていた。結局雨は終了直前になって上がった。
渡り途中の鳥が見られ、参加者と同数の24種と満

足出来る内容だったのではないだろうか。

(吉原俊雄)

10月7日(日) さいたま市 民家園周辺

参加：29名 天気：小雨

カイツブリ カワウ ゴイサギ ダイサギ コサギ アオサギ カルガモ コガモ オナガガモ ハシビロガモ ヒドリガモ キンクロハジロ チュウヒ ハヤブサ チョウゲンボウ バン オオバン キジバト カワセミ ハクセキレイ セグロセキレイ ヒヨドリ モズ シジュウカラ ホオジロ カワラヒワ スズメ ムクドリ ハシボソガラス ハシブトガラス (30種) (番外：ドバト) 小雨が降っていたが「天候が良くなる」という予報だったので開催した。しかし、蓋を開ければ終始小雨模様。小鳥類はサッパリだった。その代わり、池の真ん中にカモ類が現れ、猛禽3種の止まり姿もじっくり観察することが出来た。鳥合わせ後に雨が止み、薄日がさす空模様に回復。お天道様がうらめしい…。悪天候の中ご参加いただいた皆様、本当にお疲れ様でした。(須崎 聡)

10月14日(日) 熊谷市 大麻生

参加：50名 天気：晴

トビ オオタカ ハイタカ ノスリ キジバト アマツバメ アカゲラ コゲラ ヒバリ ショウドウツバメ ツバメ ハクセキレイ ヒヨドリ モズ キビタキ エナガ ヒガラ ヤマガラ シジュウカラ メジロ ホオジロ カワラヒワ シメ スズメ カケス ハシボソガラス ハシブトガラス (27種) (番外：ガビチョウ、ドバト) 「ツグミ科のヒタキとヒタキ科のヒタキ」というテーマを掲げた、昨年同月のリベンジ探鳥会である。とは言うものの、新しい鳥類目録では、ヒタキと名のつく鳥はすべてヒタキ科に分類されることになり、テーマ自体が無意味なものになってしまった。今日も、ヒタキとの出会いはかなわず。しかし、冬鳥の順調な渡来を実感して、昨シーズンの冬鳥が少なかった分、この冬に期待がふくらむ。

(榎本秀和)

10月20日(土) 加須市 渡良瀬遊水地

参加：49名 天気：晴

カイツブリ ハジロカイツブリ カワウ ダイサギ アオサギ コハクチョウ マガモ カルガモ

コガモ ヨシガモ ヒドリガモ オナガガモ ホシハジロ キンクロハジロ ミサゴ トビ チュウヒ オオバン ユリカモメ クロハラアジサシ キジバト ツツドリ コゲラ ヒバリ ショウドウツバメ ツバメ ハクセキレイ ヒヨドリ モズ ジョウビタキ ウグイス ヤマガラ シジュウカラ ホオジロ オオジュリン カワラヒワ マヒワ シメ スズメ ムクドリ カケス ハシブトガラス ハシボソガラス (43種+タカ科ハイタカ属不明種1) (番外：ドバト) 集合場所では早速ツツドリが出迎えてくれた。台風19号の通過後に各地で見られていたクロハラアジサシも残っていてくれた。いつものハヤブサはお留守だったが、お目当てのチュウヒは悠々と谷中湖の上を飛翔してくれ、カモはやや少なかったものの季節の変わり目としては期待以上の鳥たちが見られた。鳥合わせの際、上空を渡って行ったハクチョウをカウントし忘れた。少数のみの確認だったが、コハクチョウとした。ご参加の皆様にはすみませんでした。1種増やしておいてください。(佐野和宏)

10月20日(土) 『しらこぼと』袋づめの会

ボランティア：11名

相原修一、新井浩、榎本秀和、海老原教子、海老原美夫、大坂幸男、佐久間博文、志村佐治、藤掛保司、増尾隆、松村禎夫

10月21日(日) さいたま市 三室地区

参加：60名 天気：晴

カイツブリ カワウ ゴイサギ アオサギ カルガモ コガモ オオタカ チョウゲンボウ キジバン イソシギ キジバト ヒバリ ハクセキレイ ヒヨドリ モズ シジュウカラ メジロ ホオジロ カワラヒワ マヒワ シメ スズメ カケス ハシボソガラス ハシブトガラス (26種) (番外：ドバト) 10月といえばやはりノビタキ。前週の土曜日には乱舞していたのに、本番ではノビタキスポットを巡るもなぜかいない。最後のスポットに行くと、なんとそこにはマヒワが5羽もいるではないか。上空ではシメも飛び、山から下りてきたカケスもフワフワと飛翔。ヒヨドリも増え、あちこちでモズの縄張り宣言(高鳴き)。今日も暑かったが確実に冬の準備になってきていると感じた。(青木正俊)

連絡帳

●見沼ツデーウォークでPR



さいたまスポーツコミッション・さいたま観光国際協会、朝日新聞社など主催のウォーキングイベント「第1回さいたまマーチ〜見沼ツデーウォーク〜」が11月24日(土)〜25日(日)の2日間開催され、当会は、さいたま新都心駅近くの主会場高沼遊歩道に、「見沼たんぼ・さいたま市&市民ネットワーク」と並んでPRブースを出展しました。

メジロを模した衣装を着たり、紙芝居「わたしのことり」を上演するなど工夫をこらし、探鳥会案内、入会案内それぞれ約400枚と、『野鳥』誌バックナンバーや本部

発行のフリーペーパー『トリノ』を配布、図鑑などを販売、PRにつとめました。

ボランティア：相原修一 青木正俊 浅見徹 海老原教子 海老原美夫 大坂幸男 楠見邦博 小林みどり 佐野和宏 中里裕一 菱沼一充 菱沼洋子 橋口長和 藤掛保司 (14名)

●会員数は

12月1日現在1,905人。

活動と予定

●11月の活動

11月10日(土) 12月号校正(大坂幸男、小林みどり、志村佐治、長嶋宏之、山部直喜)。
11月18日(日) 役員会(司会：佐野和宏、各部の報告・さいたま市緑区環境講演会後援・見沼たんぼクリーン大作戦・ツデーウォーク準備・その他)。
11月19日(月)「埼玉会報だけの会員」に向け12月号を発送(倉林宗太郎)。

●1月の予定

1月5日(土) 編集部・普及部・研究部会。
1月12日(土) 2月号校正(午後4時から)。
1月19日(土) 袋づめの会(午後3時から)。
1月20日(日) 役員会(午後4時から)。

編集後記

私の住んでいる三郷では、今月中に一年で一番綺麗な日の入りダイヤモンド富士が見られそうだ。その日を割り出す計算方法もあると言う。そろそろだなど思いながら、この頃の夕焼けを楽しんでいる。(山部)

大勢の人が行き交う高沼遊歩道の一角に、似合わない衣装を身にまとった飛べない巨大メジロが何羽も出現。大笑いしながら、とりあえず個人特定できる写真の掲載は見合わせます。(海)

しらこぼと 2013年1月号(第345号) 定価200円(会員の購読料は会費に含まれます)
 発行人 藤掛保司 編集発行 日本野鳥の会埼玉 郵便振替 00190-3-121130
 〒330-0064 さいたま市浦和区岸町4丁目26番8号 プリムローズ岸町107号
 TEL 048-832-4062 FAX 048-825-0460 <http://35.tok2.com/wbsjsaitama/>
 編集部への原稿 yamabezuku@hotmail.com 野鳥情報 toridayori@hotmail.com

住所変更退会などの連絡先は 〒141-0031 品川区西五反田3丁目9番23号 丸和ビル
 (公財)日本野鳥の会会員室 TEL03-5436-2630 FAX03-5436-2635 gyomu@wbsj.org
 本誌掲載記事はホームページに転載される事があります。本誌またはホームページからの無断転載は、かたくお断りします。 印刷 関東図書株式会社